

抗 Nestin 抗体, ラット モノクローナル (7A3)

73-100 200ug

保存: 4℃で輸送、-20℃で保存)

反応特異性: マウス Nestin。他の種はテストしていない。

抗原: マウス E16 期胚の脳皮質抽出液

用途:

1. 免疫細胞化学
2. 免疫組織化学

この抗体はイムノブロットングには適さない。

この抗体はラットの抗体であるので、マウス胚の脳の免疫染色に有用である。ラットの抗体はマウスの組織染色においてバックグラウンドが極めて低い。また、マウスやウサギ抗体との二重染色にも有効である。

アイソタイプ: ラット IgG2b κ

形状: 精製モノクローナル抗体 (IgG) 1mg/ml in PBS, 50% glycerol, 濾過滅菌。添加物はない。

背景 Nestin は、ほ乳類の胎生期、中枢神経系形成過程において多潜性幹細胞(stem cell)に選択的に発現している中間径フィラメントタンパク質である。Nestin は分化が進むと発現が消失し、成体では他の中間径フィラメントタンパク質に置き換わるが、虚血、炎症、脳傷害、腫瘍などの病的状態において再び発現が見られる。Nestin は多くの腫瘍、特に中枢神経系の腫瘍において検出されるので、神経系腫瘍の癌幹細胞マーカーとして注目されている。

この抗体は無血清培地で培養されたハイブリドーマの培地から独自のクロマト法などの mild な方法により精製されたものである。

データリンク: Swiss-Prot [Q6P5H2](#) (マウス)

文献: この抗体は以下の論文に使われた。

Iriuchishi H. Neovascular niche for human myeloma cells in immunodeficient mouse bone
[PLoS One](#). 2012;7(2):e30557. PMID: [22347385](#) IHC-F (mouse)

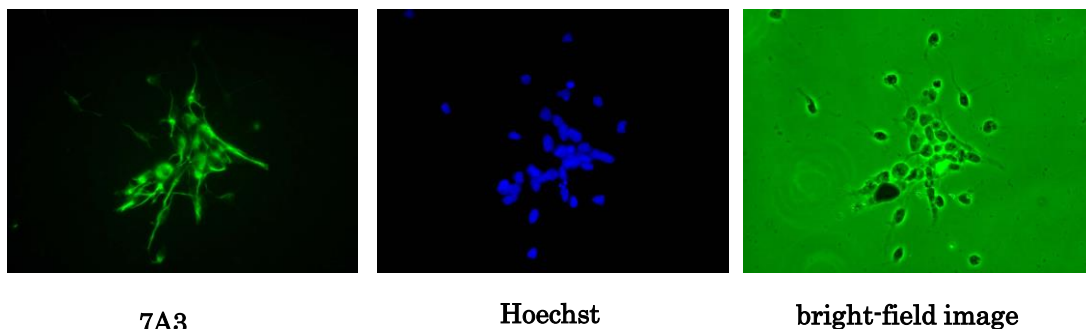


図1 マウス胚の脳、神経系前駆細胞の初代培養細胞における免疫染色

7A3 抗体による染色 (左図)、Hoechst による染色 (中央) 未染色 (右図)

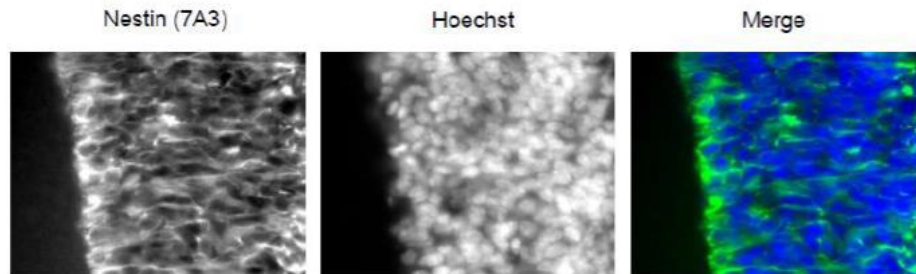


図2. マウス (E 1 6) の大脳皮質の凍結切片の抗 Nestin 抗体による組織免疫染色.

7A3 抗体 (1/100 希釈)による染色 (左図) Hoechst による DNA 染色 (中央) 両者を重ねた図 (右図)

、